

未来への発信 安心の創造 ―知識と経験そして確かな技術へ― 第12回かながわ高齢者福祉研究大会開催報告

7月10日、パシフィコ横浜において、高齢者福祉の最前線で活躍する福祉従事者、介護・福祉を志す学生、社会

福祉分野の大学生など2千人を超える参加者による、第12回かながわ高齢者福祉研究大会が開催されました。

本大会は、本会老人福祉施設協議会委員が中心となり、県介護福祉士養成校連絡協議会の協力を得て、大会実行委員会を設置し、研究大会のプログラム等の企画と当日の運営を担ってきました。

今回の研究発表のエントリーは141題。近年は利用



研究発表はこの11年間でのべ1,599題。発表後には、個別の質疑応答や名刺交換がフロアで展開されました（研究発表）



介護福祉を学ぶ学生が利用者役として協力（介護技術発表）

者のアクティビティに関するテーマを筆頭に、人材育成や業務改善・効率化のテーマが増加傾向にあります。またターミナルケアやチームケアにおける医療との連携場面での、介護の専門性を発揮した事例も数多く報告されました。

さらに、介護現場で実践されている技術を知ってもらうことを目的とした、今年で3回目となる介護技術発表では、20組がエントリー。これまでの「緊急時対応」「介護食の展示・食事介助と口腔ケア」「移動介護」を再編し、初めての試みとして、「認知症ケア」を実施しました。介護技術の発表者は共通事例を検討し、手順や配慮点をまとめた発表用シートを事前に作成の上、当日に臨みました。

発表では、ケア場面での声掛けのタイミング



介護福祉のプロを目指す、600人を超える学生が参加（就職相談コーナー）

や話題の選び方、声の大きさなどが、日常の実践と変わらぬよう、ピンマイクを通じて会場全体に伝わるよう配慮されました。利用者役を演じた学生からは「プロの技術に触れ、利用者にあった個別介護の大切さを学んだ」「就職したら自分も発表したい」との感想も寄せられています。

一方、研究発表と同時に開催した「就職相談コーナー」では、ハローワーク横浜と本会かながわ福祉人材センターが連携。94法人98ブースにて求人施設等の説明を行い、600人を超える学生の参加を得ました。さらに大会会場内では、協賛企業による展示会（34社39ブース）を最終実施し、参加者からの質問に答えながら、介護用品等の商品説明を行う姿が目立ちました。



終日にぎわう企業協賛ブース

学生時代に就職相談コーナーを利用した経験があり、現在はケアワーカーとして活躍する参加者からは「学生時代とはまた違った刺激を受けた。日々の実践の中での学びが多くあるが、こうした職場外研修の機会もモチベーション向上につながる」などの感想が寄せられました。ほかにも「課題に取り組んだ成果だけでなく、評価を含む発表が増えた。継続して取り組んだ成果を何年後かにもう一度聞きたい」などの意見も挙がっています。

本大会における実行委員会委員の方をはじめ、多くの高齢者福祉従事者や教育関係者の協力と熱意に感謝するとともに、本会ではこれからもさまざまな立場にある機関・団体等と連携し、高齢者福祉・介護福祉の最前線を発信していきます。

（社会福祉施設・団体担当）